

日 本 史

- I 次の史料を読んで、下記の問いに答えなさい。ただし、問題作成の都合上、一部改変した。
(問1から問4まですべてで400字以内)

「今、重秀が議り申す所は、御料すべて四百万石、歳々に納めらるる所の金は凡七十六万両余、此内、長崎の運上というもの六万両、酒運上というもの六千両、これら近江守申し行ひし所也。此内、夏冬御給金の料三十万料余を除く外、余る所は四十六七万両余也。しかるに去歳の国用、凡金百四十万両に及べり。此外に内裏を造りまいらせらるる所の料、凡金七八十万両を用ひらるべし。されば今国財の足らざる所、凡百七八十万両に余れり。…しかるに、只今、御蔵にある所の金、わづかに三十七万両にすぎず。…(a)前代の御時、歳ごとに其出るところの入所に倍増して、国財すでにつまづきしを以て(b)元禄八年の九月より金銀の製を改造らる。これより此かた、歳々に収められし所の公利、総計金凡五百万両、これを以てつねにその足らざる所を補ひしに、おなじき十六年の冬、大地震によりて傾き壊れし所々を修治せらるるに至て、彼歳々に収められし所の公利も忽につきぬ。…」

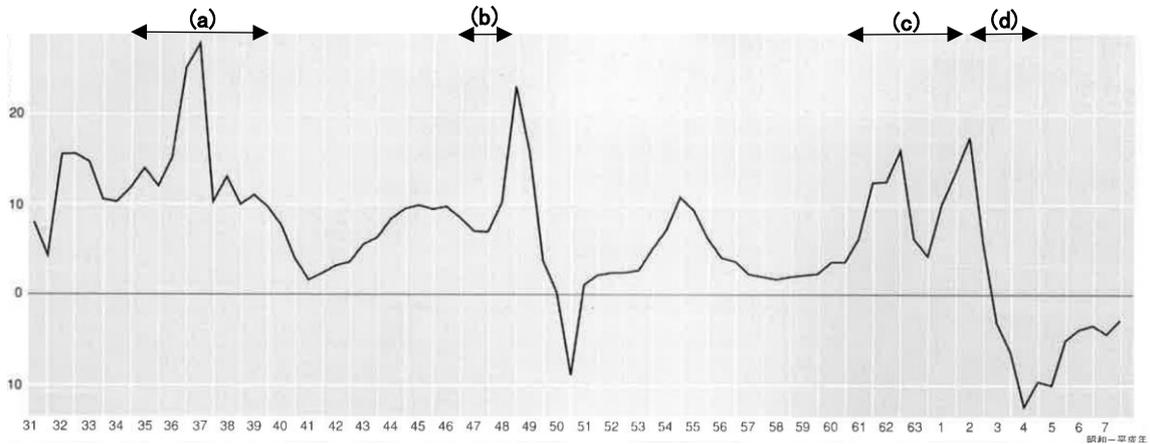
- 問1 上記の史料は、史料当時の政治を主導していた政治家の自叙伝の一部である。この著書名を記せ。
- 問2 下線部(a)を、この時期の将軍名を挙げながら具体的に説明せよ。
- 問3 下線部(b)に関して、この改鑄を行った理由を2つ説明せよ。
- 問4 上記の史料は幕府財政の窮乏について記されたものである。財政窮乏は江戸時代中期以降の幕府にとって喫緊の課題であったが、その根本原因としては「諸色高米価安」という現象があった。この現象が生じた背景を、それがなぜ幕府財政の悪化につながるのかについて明らかにしながら説明せよ。

II 次の文章を読んで、下記の問いに答えなさい。(問1から問4まですべてで400字以内)

明治以降の言論・出版統制について略述しよう。明治政府は最初に太政官布告を発し、後に出版条例を公布した。この出版条例により出版の許可制がとられ、勝手な議論や機密の漏洩などを導くような出版は処罰された。(a)自由民権運動高揚の中で、出版条例は全面改正され、(b)や新聞紙条例とともに、行政処分としての発行停止を明文化し、違反者には厳罰を科すなど、言論弾圧の大きな武器となった。太政官布告や勅令であった出版条例は、1893年に出版法となり、1909年の新聞紙法とともに、(c)明治憲法下の二大メディア法を形成した。出版法は書籍のほか、学術、技芸、統計、広告の類を記載する雑誌も規制の対象とし、天皇機関説に関する美濃部達吉博士の憲法書や(d)津田左右吉博士の神代史に関する著書などがこれにより規制を受けた。新聞紙法は太平洋戦争時に強化されたが、戦後になって廃止された。

- 問1 下線部(a)に関して、1870年代末～80年代初めにかけて、自由民権運動が高揚した背景を説明せよ。
- 問2 空欄(b)に当てはまる、1875年に布告された日本最初の独立名誉毀損法の名称を記せ。
- 問3 下線部(c)に関して、明治憲法下の内閣が短命にならざるをえなかった理由を説明せよ。
- 問4 下線部(d)に関して、津田左右吉の著書が発禁を受けた理由を説明せよ。また、同時期に政府により著書が発禁された事例を2つ説明せよ。

Ⅲ 次の図は、戦後期の6大都市住宅地地価変動率（6カ月ごとの対前比率(%)）のグラフである。このグラフ内の大きな3つの波について、下記の問いに答えなさい。（問1から問3まですべてで400字以内）



（「ミサワホーム総合研究所 テクニカルレポート vol.53 日本の土地事情1」より引用。ただし一部改変）

問1 図中の矢印(a)の期間に関して、この期間はいわゆる高度経済成長期の一部にあたるが、同じ「好景気」でも矢印(c)の期間の「好景気」とは、その性格に関して明確な相違が見受けられる。その相違を説明せよ。なお、高度経済成長に関する説明をする際は、必ず、“国際収支の天井”の語句を用いながら、前半と後半の特徴の違いに留意して説明すること。

問2 図中の矢印(b)の期間に関して、この期間の地価高騰の理由を説明せよ。

問3 図中の矢印(c)及び矢印(d)の期間に関して、この2つの期間に生じた人口移動の実態を説明せよ。